

令和2年6月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和2年6月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていたサッカーJリーグの日程が発表され、ヴァンラーレ八戸が所属するJ3は6月27日に開幕することが決定しました。

ヴァンラーレ八戸はJ3参入2年目となり、目標のJ2昇格に向けてさらなる飛躍が期待されます。

みなさまの応援がチームの力になります。『全緑』で応援をよろしく願いいたします。

◆ヴァンラーレ八戸の詳細はこちらをご覧ください（チームホームページ）

<https://vanraure.net/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

入戸 6月号 レポート

令和2年5月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	市美術館サイトに特設ページ開設「おうちで楽しもう！図工・美術」
(2)	LEDで農業経費や農作業の負担軽減 八戸市が実証試験
(3)	青森県 東北で初めてのプラごみゼロ宣言
(4)	青森県内宿泊施設の予約9割減 モニターツアーでお得プラン企画
(5)	八戸都市圏交流プラザ「エイトベース」開業9月に延期
(6)	八戸市新美術館など公立美術館5館連携 ～アートで県内周遊～

【産業】

記事	概要
(7)	地元産ブルーベリーの大福「紫福の時」道の駅なんごうで発売
(8)	八戸酒造の「陸奥八仙」ビーガン認証取得
(9)	南部さき織りと南部菱刺しのマスク販売
(10)	八戸商議所青年部企画「はちのへ支援クーポン」支援の輪広がる
(11)	「はちのへゆーゆらんど新八温泉」閉館
(12)	「黒にんにく」思わぬ需要増 免疫力向上に期待

【地域】

記事	概要
(13)	日本一の規模を誇る館鼻岸壁朝市 約4カ月遅れの開幕
(14)	八戸で気温31度 観測史上最も早い真夏日
(15)	青森県内のクマ出没 4年連続400件超
(16)	八工大機械工学科が動画制作 ～車検延長 分かりやすく解説～

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	県重宝「湊家文書」八戸市の音喜多さんが市に寄贈
(18)	フラットアリーナ 初の「アイスホッケータイム」実施
(19)	新たな舞台信じ 光星と工大一が練習試合

【行政】

記事	概要
(1)	<p>市美術館サイトに特設ページ開設 「おうちで楽しもう！図工・美術」</p> <p>八戸市新美術館建設推進室は、市美術館のウェブサイト上に「おうちで楽しもう！図工・美術」と銘打ったページを4月30日に開設した。5月1日現在で、油彩や日本画など4作品を取り上げているほか、親子で一緒に美術鑑賞を楽しむコツを紹介するワークシートを掲載している。2021年度開館予定の新美術館外観の塗り絵データもダウンロードできる。今後は、新美術館の建設の様子やスタッフを紹介する動画配信のほか、掲載する美術作品を増やすなど、内容を充実させる予定。</p>
(2)	<p>LEDで農業経費や農作業の負担軽減 八戸市が実証試験</p> <p>発光ダイオード（LED）の光を照射することで農業経費や農作業の負担を減らす取り組みが、農業関係者の注目を集めている。品目や光の波長に応じて、虫害の防除や農作物の成長を促進・抑制する効果が見込まれているためだ。八戸市農業経営振興センターでも2019年度から、イチゴとカンパニュラ（キキョウ科）栽培について三八地域での適性を確かめる実証試験を行っており、関係者が効果に期待を寄せている。同センターでは今後、実証実績がまとまり次第、市民に公表する予定。</p>
(3)	<p>青森県 東北で初めてのプラごみゼロ宣言</p> <p>青森県は5月20日、「あおもりプラごみゼロ宣言」を行い、プラスチックごみ削減や資源循環に向けた県民行動の促進を誓った。同日、県庁で行われた宣言式で、もったいない・あおもり県民運動推進会議会長の三村申吾知事が、外出時にマイバッグを持ち歩く習慣や正しいごみの分別など7項目を読み上げた後、直筆の宣言文を披露した。6月から県内コンビニなどに宣言に関するポスターを掲示し、マイボトルの使用など環境に優しい行動の実施を呼び掛けていく。プラスチックごみ削減に関する宣言は東北では初めてで、全国では5例目となる。</p>
(4)	<p>青森県内宿泊施設の予約9割減 モニターツアーでお得プラン企画</p> <p>青森県内宿泊施設の5月の予約状況が、新型コロナウイルス感染拡大の影響から前年同月比88.9%減と大きく落ち込んでいる。県境をまたぐ移動の自粛が続いていることから、県は県内在住者を対象にした「県内宿泊モニターツアーキャンペーン」に取り組む。キャンペーンは、地域の魅力が感じられる宿泊プランを、県内在住者が通常価格より5千円安く利用できる仕組み。各プランを一覧できる特設サイトをウェブ上に開設する方針で、早ければ7月下旬にもキャンペーンを始める。</p>
(5)	<p>八戸都市圏交流プラザ「エイトベース」 開業9月に延期</p> <p>八戸市は、都内に開設を予定する八戸都市圏交流プラザ「8 base（エイトベース）」について、開業時期を当初の6月下旬から9月に延期することを明らかにした。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、工事に遅れが出ているのが主な要因。エイトベースは八戸圏域8市町村の特産品の販路拡大や観光誘客、移住促進に向けた首都圏の新たな交流拠点。JR有楽町駅と新橋駅間の高架下空間を生かし、ジェイアール東日本都市開発が整備する商業エリア「日比谷OKUROJI」に入居する。</p>

(6)	<p>八戸市新美術館など公立美術館5館連携 ～アートで県内周遊～</p> <p>青森県は本年度から、県内にある公立美術館5館が連携し、共同で企画展のPRなどを行う「青森アートミュージアム5館連携事業」に取り組む。対象となるのは、十和田市現代美術館、県立美術館（青森市）、国際芸術センター青森（同市）、2021年度開館予定の八戸市新美術館と、今年6月1日にプレオープンした弘前れんが倉庫美術館。ホームページを立ち上げ、テーマごとにアートを巡る観光コースを提案する予定で、美術館を拠点にした県内周遊を促進したいとしている。</p>
-----	--

【産業】

記事	概要
(7)	<p>地元産ブルーベリーの大福「紫福の時」道の駅なんごうで発売</p> <p>八戸市南郷の「道の駅なんごう」は、地元産のブルーベリーを使用したデザートの新商品「紫福（しふく）の時」を5月1日に発売した。道の駅なんごうの指定管理者・なんごうプラザと菓子店しんぼりが共同開発。生の果実とクリームチーズがたっぷり詰まったオリジナル大福で、ブルーベリーの爽やかさとクリームの濃厚さを同時に味わうことができる。冷凍で販売しており、冷蔵庫で2、3時間解凍して食べるのがお勧め。冷凍のままアイス感覚で食べてもおいしいという。価格は1個178円（税込み）。</p>
(8)	<p>八戸酒造の「陸奥八仙」ビーガン認証取得</p> <p>八戸酒造は同社の主力商品「陸奥八仙 特別純米」が動物性素材が含まれていないことを保証する「ビーガン認証」を取得したと発表した。「陸奥八仙 特別純米」の原材料はコメと米こうじ、水のみで、4月14日付で取得した。東京五輪を契機に多くの外国人が訪日する機会を捉え、多様な文化や嗜好を持つ外国人客らへ日本酒の文化とおいしさを伝えるのが認証取得の狙い。今後は商品に認証マークを入れて首都圏を中心に出荷する方針で、ビーガン（完全菜食主義者）が安心して日本酒を楽しめる商品であることをアピールする。</p>
(9)	<p>南部さき織りと南部菱刺しのマスク販売</p> <p>八戸圏域DMO（観光地域づくり推進法人）「VISIT（ビジット）はちのへ」は、ユートリー1階おみやげショップで、「南部さき織りマスク」と「南部菱刺しマスク」を販売している。マスクは全て一点物で、伝統工芸の新たな可能性が感じられる逸品。八戸さき織りの会と西野刺っ娘の会の有志が作製した。販売価格は、フリースタイプの南部さき織りマスクが1100円、立体タイプの南部菱刺しマスクが1400円（いずれも税込み）。</p>
(10)	<p>八戸商議所青年部企画「はちのへ支援クーポン」支援の輪広がる</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大で冷え込んだ八戸市の経済回復に向け、八戸商工会議所青年部が企画した「はちのへ支援クーポン」の事業が広がりを見せている。参加店は飲食・サービス業者を中心に52店舗に上り、市職員有志がクーポンを購入するなど、趣旨の賛同者が増えて支援の動きも活発化している。クーポンは各店で販売しており、それぞれの店舗でのみ利用できる仕組み。販売額は1枚千円で、10%のプレミアム付きで1100円分使えるのが特徴。1万枚の発行を予定し、完売すれば少なくとも1千万円の経済効果が生まれる。</p>

(1 1)	<p>「はちのへゆーゆらんど新八温泉」閉館</p> <p>八戸市内最大級の温泉施設「はちのへゆーゆらんど新八温泉」が、5月31日の営業をもって閉館し、約29年にわたる営業に幕をおろした。新型コロナウイルス感染拡大の影響で利用が落ち込み、収束が不透明な状況の中で事業継続は困難と判断した。市内では宿泊型の総合健康ランドの先駆けとして地元客らに親しまれてきたが、感染拡大のあおりを受け、宿泊や飲食、宴会を中心に利用が減少。外出自粛が客足の低下に拍車を掛けた。施設の土地と建物について、運営会社は「利活用の方向性は今後、検討したい」としている。</p>
(1 2)	<p>「黒にんにく」思わぬ需要増 免疫力向上に期待</p> <p>青森県が全国一の生産量を誇るニンニクを使った健康食品「黒にんにく」の需要が高まっている。新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、免疫力アップや抗酸化作用などの健康効果が注目されるとみられる。外出自粛の影響で県内向けの出荷にブレーキがかかったが、代わりに関東方面のスーパーなどに向けた業務用や通信販売の注文が増えたことから、県外向けは前年同期の約1.5倍に伸び、県内分の落ち込みをカバーしているという。</p>

【地域】

記事	概要
(1 3)	<p>日本一の規模を誇る館鼻岸壁朝市 約4カ月遅れの開幕</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実施が見通せない状況が続いていた館鼻岸壁朝市について、7月5日から毎週日曜に開催されることが決まった。朝市は全国から観光客が訪れるため、感染予防の観点から3度にわたって延期を余儀なくされ、当初予定していた3月15日から約4カ月遅れの開幕となる。会場では、来場者の検温やマスクの着用をチェックし、出店者も除菌液の設置や商品の個包装を徹底しながら、安全な運営に努めていく。</p>
(1 4)	<p>八戸で気温31度 観測史上最も早い真夏日</p> <p>青森県内は5月3日、全域で晴れ間が広がり、青森地方気象台によると、最高気温は八戸で31.3度、三沢で30.7度に達した。共に観測史上最も早く真夏日になるなど、県内23地点中22地点が今年一番の暑さとなった。青森県内で最も高い気温となった八戸では、半袖にマスク姿でランニングに汗を流す市民が見られた。</p>
(1 5)	<p>青森県内のクマ出沒 4年連続400件超</p> <p>青森県によると、2019年に県内で報告されたツキノワグマの出沒件数は443件で、前年と比べ43件増加した。2016年から4年連続で年間400件超と高水準となっている。出沒件数の内訳を見ると、足跡や爪痕の確認を含めた目撃件数は37件増の413件、農作物の食害は4件増の25件、人的被害は2件増の5件だった。自治体別の出沒件数は深浦町が最多の94件。むつ市93件、弘前市42件、大間町39件と続き、八戸市は14件だった。山菜採りシーズンを迎え、県はクマの被害に遭わないように県民に注意を呼び掛けている。</p>

(16)	<p>八工大機械工学科が動画制作 ～車検延長 分かりやすく解説～</p> <p>八戸工業大の工学部機械工学科自動車工学コースの4年生が、新型コロナウイルス感染拡大に伴って国土交通省が延長した、自動車の車検証有効期限について解説する動画を制作した。車検証の有効期間延長といっても、対象範囲や自動車損害賠償責任保険の問題など分かりづらい点もある。そんな話を聞いた学生たちが、解説動画を作ることを企画した。公開されている動画は3分半ほどで、動画内に手書きのフリップやテロップを入れることで、車検延長について分かりやすく解説している。動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開している。</p>
------	---

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p>県重宝「湊家文書」 八戸市の音喜多さんが市に寄贈</p> <p>八戸市の音喜多勝さん(90)が所有する青森県重宝の「湊家文書」などの資料3点が、市に寄贈された。文書は津軽安東氏の子孫で、後に八戸藩士として仕えた湊家に伝わる11通の書状をまとめた巻物。書状は室町～安土桃山時代、東北各地の豪族から湊家などに宛てられたもので、北東北中世史における貴重な研究資料となっている。4月28日に市庁で感謝状の贈呈式が行われ、出席した音喜多さんに小林市長が感謝状を贈って善意をたたえた。</p>
(18)	<p>フラットアリーナ 初の「アイスホッケータイム」実施</p> <p>アジアリーグアイスホッケーの東北フリーブレイズを運営する「東北アイスホッケークラブ」は5月15日、八戸市の多目的施設「フラットアリーナ」で、スティックや防具を着けて練習できる「アイスホッケータイム」を実施した。同クラブが地域の競技力向上を目指し初めて開催。新設されたリンクを訪れた約20人が、氷の感触を確かめながら練習に汗を流した。</p>
(19)	<p>新たな舞台信じ 光星と工大一が練習試合</p> <p>高校野球の夏の甲子園大会が中止となり、球児たちが落胆する中、青森県内では5月24日、5月中旬に緊急事態宣言が解除されたことなどから、各チームが練習試合に臨んだ。八戸市内では、昨夏の甲子園大会8強の八戸学院光星と、昨秋の県大会4強の八戸工大一が激突。白熱した戦いを繰り広げ、1試合目が八学光星勝利、2試合目は引き分けとなった。球児たちは、甲子園の県予選大会を失ったが、代替えの県大会が行われることを信じ、試合ができる喜びをかみ締めながらグラウンドで躍動した。</p>